

富士市立中央病院第二次中期経営改善計画

《平成29年度》

1 設定値の達成状況

(1) 医療機能等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成29年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
紹介率	66.9%	70.0%	67.9%	
逆紹介率	54.1%	50.0%	55.6%	○
救急患者数	9,605人	10,700人	9,133人	
手術件数（件）	3,804件	3,850件	4,010件	○
患者さんアンケートによる地域貢献度	74.9%	85.0%	84.0%	
患者さんアンケートによる当院推薦度	84.8%	90.0%	86.2%	
退院調整実施率	7.7%	10.6%	19.6%	○
病診連携高度医療機器利用件数	1,815件	1,870件	1,815件	

(2) 経営等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成29年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
経常収支比率	99.5%	96.2%	100.1%	○
（実質経常収支比率）	97.1%	96.2%	98.4%	○
医業収支比率	95.3%	93.9%	94.3%	○
薬品費対医業収益比率	14.7%	14.4%	13.9%	○
診療材料費対医業収益比率	12.0%	11.7%	12.0%	
給与費対医業収益比率	58.5%	58.5%	59.0%	
病床利用率	85.9%	85.6%	84.9%	
1日平均入院患者数	446.6人	445.0人	441.4人	
1日当たり入院診療単価	53,375円	54,300円	55,709円	○
1日平均外来患者数	970.8人	960.0人	956.3人	
1日当たり外来診療単価	14,519円	14,300円	14,238円	
医師数	90人	96人	94人	
看護師数	457人	478人	478人	○
看護師の離職率	5.9%	6.0%	7.1%	

【自己評価】

平成29年度は、一般撮影用X線装置や低温プラズマ滅菌装置などの更新を図るとともに、8月には、地域の医療機関との連携を図り、かかりつけ医等を支援する中核病院としての役割を担うため、静岡県知事から「地域医療支援病院」の承認を受けるなど、提供する医療の充実を図ることにより、経常収支比率、医業収支比率は、目標を上回ることができた。

入院に関する設定値について、病床利用率、1日平均入院患者数は目標を下回ったが、手術件数の増などにより、1日当たり入院診療単価は目標を上回った。

外来に関する設定値について、1日平均外来患者数、1日当たり外来診療単価は、前年度より減少となり、目標値には届かなかった。

次年度以降も、更なる収支の改善に向け、様々な取組を進めていきたい。

2 施策の実施状況

【自己評価】

基本施策と個別事業の1年間の取組状況を、計画に照らし合わせて5点満点で評価した。

基本施策		評価
事業計画		
1 患者サービスの向上		3.6
(1) 患者満足度の向上		3.5
<ul style="list-style-type: none"> ・医師に対して、接遇研修の充実が必要と思います。 ・入院キット導入予定。 ・院内コンサートは非常に有意義であったが、年2回の開催であり、年度の評価は中程度とした。 		
(2) 情報発信の充実		3.6
<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座は、中央病院のPR、市民との距離感の育成に有効と思う。 		
2 良質な医療の提供		3.5
(1) 医療の質の向上		3.3
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の管理は、今後の課題と思う。 		
(2) 地域連携の推進		3.4
<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院に承認されたことは、大きな成果である。 		
(3) 人材育成・確保に関する取組		3.8
<ul style="list-style-type: none"> ・初期研修医を定員の4名確保できたことは、大きな成果である。 		
(4) 安全・安心な医療の提供		3.5
3 経営基盤の強化		3.2
<ul style="list-style-type: none"> ・原価計算、ベンチマークシステム ・職員への周知が見られない。 		2.4
(1) 収入の確保		3.4
<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤をはじめとした指導料算定への取組は評価できる。 		
(2) 支出の抑制		3.3
<ul style="list-style-type: none"> ・診療材料費の更なるコストダウンが必要である。 		
(3) 病院施設の運用		3.6
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの改修が行われ、LED照明への変更も行われた。 ・施設が老朽化しているので、現状維持するのも大変である。 		
経営形態		
1 経営形態の考え方		2.7
<ul style="list-style-type: none"> ・県内の公立病院は地方公営企業法全部適用に移行しているので、検討も必要である。 		

特記事項

- ・良質な医療の提供に関しては、一定の成果が出せていると思う。
- ・実質収支が赤字だったこともあり、経営基盤の強化には、一層取り組む必要がある。

【外部委員による評価】

(1) 患者サービスの向上について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	0人	8人	0人	0人	0人	0人

主な意見

- ・ 全ての項目で努力していることが見受けられる。
- ・ 待ち時間対策への取組や出前講座等においては意欲的である。
- ・ 患者さんアンケートにおいて、医師のポイントが低い点が気になる。

(2) 良質な医療の提供について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	1人	5人	2人	0人	0人	0人

主な意見

- ・ 全体的に計画通り事業執行がされているように判断した。
- ・ NICUの病床利用率が低いことは決してマイナス評価ではなく、むしろICUの稼働率が高いことが懸念材料である。
- ・ 専門医療推進への取組、医師の確保、機器整備も積極的に行っている事が見られる。
- ・ 高度医療体制への取組の評価が低かったのは残念である。
- ・ 良質な医療の提供のため、高度医療の取組は今後も期待しています。地域の基幹病院でもあるため、少しでも地域に還元できる取組を考えていただきたい。

(3) 経営基盤の強化について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	0人	2人	3人	3人	0人	0人

主な意見

- ・ 経常収支比率が100%を上回ったことは評価できる。
- ・ 指導料算定等、増加を努力している事を評価したい。
- ・ 平均在院日数の短縮に向け、後方支援病院や施設等と連携が取れていたが、目標値には達していなかった。
- ・ 歳出削減への取組は評価できるが、原価計算、ベンチマークシステムの活用が十分されていない。

(4) 経営形態について

評価	十分 評価できる	やや 評価できる	中程度	やや 不十分	不十分	その他
	1人	0人	3人	2人	1人	1人

主な意見

- ・現時点では現在の経営形態を維持するとの判断であると思われるが、経営形態の異なる施設の状況調査等を実施し検討は常に行うべきと思う。
- ・地方公営企業法の全部適用を検討すべき。
- ・現時点で、現状維持の方向性が示されていることなので評価は控えます。

(5) 総評

設定した事業に対し、全体として積極的な取組が行われ、努力していることは評価できる。また、富士市の基幹病院として、各方面への取組が図られていたと言える。

経常収支比率が100%を超えていることは立派だと思うが、一般会計からの補助金を含んでの数値である。取得できていない施設基準を取得することにより、1日当たり入院診療単価など、まだ改善の余地はあると思われる。

また、人的資源はある程度充足されてきていると思われるので、今後は特色のある医療を提供するなど、圏域以外にもアピールできる診療内容の充実が求められる。

冬場などに救急ストップとなることもあるため、救急体制の充実が望まれる。